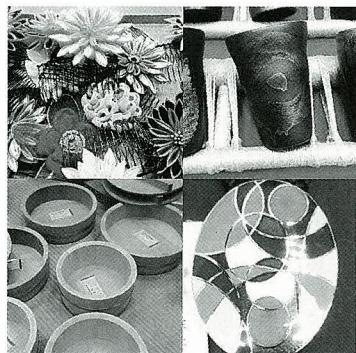


伝統工芸技術の魅力がいっぱい! 平成29年5月2日(火)

あらかわ伝統工芸ギャラリーオープン



↑ ワークショップ (イメージ)

← さまざまな伝統工芸品

荒川ふるさと 文化館だより

荒川区教育委員会
荒川ふるさと文化館
荒川区南千住6-63-1
TEL 03(3807)9234
登録 (28) 0155号

伝統工芸をより身近に 平成29年5月2日 (火)、ふるさと文化館に、伝統工芸技術の素晴らしさを発信する「あらかわ伝統工芸ギャラリー」(以下、「伝統工芸ギャラリー」)がオープンします。

荒川区には、無形文化財・工芸技術保持者である職人さんが多く住んでいます。それが、区の文化財の特徴の一つで、これまでに、「あらかわの伝統技術展」「あらかわ学校職人教室」「職人道場」「芦舍エントランス展示」、「荒川の匠育成事業」などを実施して、伝統工芸技術の普及・継承に努めてきました。区の伝統工芸技術の業種は多岐にわたり、魅力あるものばかりです。これまでに伝統工芸技術を身近に感じじうことができる常設のスペース



荒川区伝統工芸技術保存会のみなさん

技に出会う／実演・体験／毎月一回程度、職人さんによる実演・体験を行います。職人さんの実演を見学し、伝統工芸の技を体験できる楽しいうークショップです。

技を使う／伝統工芸品の販売／伝統工芸品の良さを知るには、使つていただくことが一番。伝統工芸品の販売を行う予定です。

立ち寄る度に新たな伝統工芸技術の魅力を発見できる「伝統工芸ギャラリー」へ、是非お越しください。

技を見る／伝統工芸品の展示／「保存会」の会員、区登録無形文化財保持者等の匠の技を、伝統工芸品、記録映像「伝統に生きる」、関連図書等により紹介します。入場無料。年に3回程の展示替えを予定しています。

技を見る／伝統工芸品の展示／「保存会」の会員、区登録無形文化財保持者等の匠の技を、伝統工芸品、記録映像「伝統に生きる」、関連図書等により紹介します。入場無料。年に3回程の展示替えを予定しています。

の設置要望が多く寄せられてきました。この3月に開館した「ゆいの森あらかわ」への資料移管に伴う郷土学習室のリニューアル計画で、伝統工芸技術の常設のスペースが誕生しました。「伝統工芸ギャラリー」は、荒川区伝統工芸技術保存会(以下、「保存会」)のみなさんと協働で運営していきます。

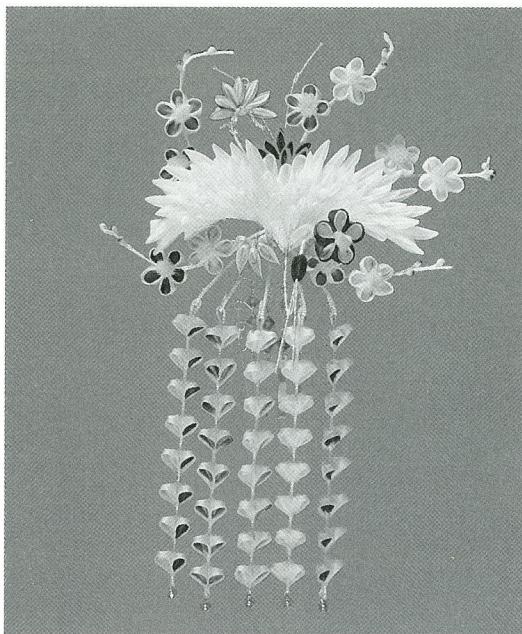


写真1 松竹梅と鶴

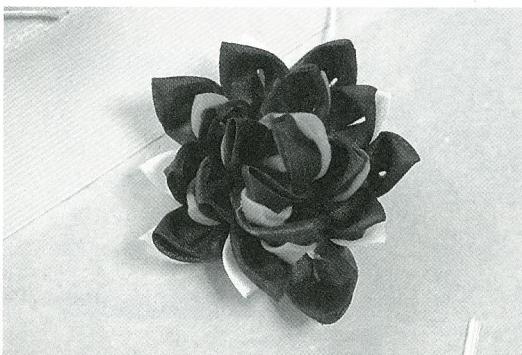


写真2 変わり剣つまみの菊



写真3 頬紫陽花



写真4 朝顔

七五三、成人式、婚礼など、人生の節目節目の祝い事で髪に飾るつまみかんざし。戸村絹代さんは母のひで氏（元区指定無形文化財保持者）に師事し、長年一緒に作業するなかで技術を受け継ぎ、南千住の地で、つまみかんざしを作っています。

つまみかんざしの「つまみ」は、小さく裁断した羽二重（薄い絹の生地）をピンセットでつまんで、折り曲げ、飾りの部分を形作ることに由来します。必要な分の色と数だけ「つまみ片」を

速報

「伝統に生きる」完成！

平成 28 年度 伝統工芸記録映像

つまみかんざし

戸村 絹代さん

作り、丸い形の「丸つまみ」と細い形の「剣つまみ」が基本です。「つまみ片」を台紙に配置して（「ふく」という作業）、飾りを形作るのです。

デザインには伝統的な祝儀事に用いられる松竹梅や鶴などの縁起の良いものが好まれます（写真1）。

先代が生み出した技 戸村家ならではの技もあります。先代のひで氏は、新たなつまみ方「変わり剣つまみ」を考案しました。「剣つまみ」の先端を切り落として、内から外へひねつて作る花びらは、オリジナリティに溢れています（写真2）。また、台紙を使わず、針金に「つまみ片」を直接ふく技術も考案しました。いずれも実用新案登録を取得しています。かつて母と作業した思い出とともに戸村さんはこれらの技術も継承しています。

戸村さんのつまみかんざしの技術は、平成27年度に区指定の無形文化財となり、今年度、伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる」では、その製作工程を収録しました。この映像は、区内図書館で貸出しますので、是非ともご鑑賞ください。

（澤田善明）

**祝
おめでとうございます！**

区内にはたくさんの伝統工芸の優れた技術を持つ職人さんがあります。職人さんは、日々の作品製作に励む傍ら、業種の枠を超えて結成された荒川区伝統工芸技術保存会の活動を通して、「あらかわの伝統技術展」や「あらかわ学校職人教室」、「荒川の匠育成事業」などの技術の公開・普及にも努めています。

区では伝統工芸の職人さんの技術を保護するために、区指定・登録無形文化財として認定していますが、国や都においても技術の高さ、後進の育成、公開・普及で特に優れた業績を残した方々の表彰制度があります。今年度は、4人の区指定無形文化財保持者が国や東京都から褒章・表彰を受けましたのでご紹介します。



**菓子満（鋳造）
〈黄綬褒章（労働分野）〉**

菓子さんは、鋳型作りから仕上げまでほぼ全ての工程をこなし、伝統的な真土型鋳造技法によって美術工芸品を忠実に再現する高い技術を持つています。自身の作品はもとより、当館前にお橋本左内の墓旧堂（区登録有形文化財）



**高久秀芳（人形頭）
〈現代の名工（卓越した技能者）〉**

高久さんは、分業で行う人形製作のなかで、人形頭を作っています。石膏製の量産品が増えるなか、今では希少となつた桐塑（桐のおがくず）製の生地に自作の玉眼を入れ、胡粉で顔の輪郭を形作り、顔・毛髪の生え際を描いて仕上げる、高い技術を持っています。雛人形や五月人形、市松人形のほか、多種多様な人形頭を作ることができます。

また、前橋（群馬県）や岩槻（埼玉県）の若手の人形製造工への技術指導を行つています。

川俣頼二（桐たんす）

〈東京マイスター（東京都優秀技能者知事賞）〉

川俣さんは、木地作りと仕上げを分業体制で行う桐たんす業界の中にあって、両方



**戸村絹代（つまみかんざし）
〈東京マイスター（東京都優秀技能者知事賞）〉**



戸村さんは、松竹梅や鶴のような伝統的な縁起物だけでなく、多様な動植物を意匠としたつまみかんざしの高度な製作技術を持っています。

また、先代ひで氏（元区指定無形文化財保持者）が考案し、实用性を追求して新案登録を取得した技を受け継いでいます（2ページ参照）。

つまみかんざし教室の講師を務めるほか、区内はもちろん他地域で開催される伝統工芸技術の公開事業にも協力しています。

（野尻かおる）

の技術をそれぞれ修得し、全工程を一貫して製作する高い技術を有する職人でした。

東京都桐たんす工

業協同組合では副理事を務め、指導的立場から若手へ助言を行いました。また、荒川区伝統工芸技術保存会の会長として、

区の伝統工芸技術の保存・継承に尽力しました。平成 27 年度都功労者表彰（文化功労）受賞。（※平成 28 年 10 月 19 日逝去）

あらかわ
タイヒトシネルイス²⁶
けんさいらくしづか

妍斎落歯塚

— 養福寺と江戸談林派 —



妍斎落歯塚（養福寺境内
(西日暮里 3-3-8)）

朱塗りの仁王門（区指定有形文化財）でおなじみの養福寺（西日暮里三丁目）。境内に入つて左の植え込みに、高さ117・6cm、幅39・5cm、奥行き24cmの碑が立つている（写真）。「妍斎落歯塚」と刻まれており、抜け落ちた歯を埋めたことを記念した建てた碑なのだろう、ということは分かる。

何が刻まれているのか？ 碑自身の存在はかなり昔から知られており、古いところでは、「埋木花」（近世後期）に見える。磯ヶ谷紫江『日暮里養福寺と梅翁花尊碑』（昭和12年（一九三七年）には、梅翁花尊碑（区指定有形文化財）と一連のものとして碑文も紹介されている。ここで改めて刻まれた碑文を読んでみよう。

【正面】 *裏面碑文なし

妍斎落歯塚

【左側面】

寛政九年丁巳十月 門人 方円庵得器

建之

まず右側面の俳句は妍斎のもので、「津富」とは妍斎の俳号である。妍斎は姓を島といい、安永10年（一七八一）の「梅翁百年香」の跋に、西山正流陳珠妍斎津富抒書と自身で記しているように、西山宗因を祖とする江戸談林派の系譜を継ぐ。大坂天満の西山家を訪ね遺族に、宗因百回忌追善事業を相談した本人でもある（「西翁百年香」）。これが後、養福寺の「梅翁花尊碑」（談林派歴代の句碑の内の一つ。区指定有形文化財）の建碑につながり、以降、鎌倉建長寺や大坂天満宮や龜戸天神での建碑など、宗因顕彰のさきがけとなつた（「宗因顕彰とその時代」（『連歌俳諧研究』97）。

妍斎は、蒼狐の弟子にあたり、谷素外とは兄弟弟子だが（西山家連誹系譜）「梅翁宗因発句集」所収）談林派歴代の句碑の内一つ、月の碑には師蒼狐没後、素外に属するところもある。もつともこれは素外が記したもので、実際は一門を構えた。方円庵得器は妍斎の門人で、その後継であると目され、人気をさらつていたらしい（「蕪村・一茶とその周辺」）。妍斎は浮世絵師勝川春章の誹諧の師匠でもあった（『浮世絵師伝』）。

なぜ養福寺に建てられたのか？ 寛政10年、妍斎の百ヶ日追善のため出版された「誹諧塚

【右側面】 空にかへすものは時をまち
地にかへすものの先ひとつ
ひろひよせて埋むおちはや風の売津富^{（拾い）寄（菴美）}

碑文から分かることは、寛政9年（一七九七）10月、方円庵得器という人物が、この碑を建てたということ程度だが、周辺資料から以下のことが判明する。

まず右側面の俳句は妍斎のもので、「津富」とは妍斎の俳号である。妍斎は姓を島といい、安永10年（一七八一）の「梅翁百年香」の跋に、西山正流陳珠妍斎津富抒書と自身で記しているように、西山宗因を祖とする江戸談林派の系譜を継ぐ。大坂天満の西山家を訪ね遺族に、宗因百回忌追善事業を相談した本人でもある（「西翁百年香」）。これが後、養福寺の「梅翁花尊碑」（談林派歴代の句碑の内の一つ。区指定有形文化財）の建碑につながり、以降、鎌倉建長寺や大坂天満宮や龜戸天神での建碑など、宗因顕彰のさきがけとなつた（「宗因顕彰とその時代」（『連歌俳諧研究』97）。

妍斎は、蒼狐の弟子にあたり、谷素外とは兄弟弟子だが（西山家連誹系譜）「梅翁宗因発句集」所収）談林派歴代の句碑の内一つ、月の碑には師蒼狐没後、素外に属するところもある。もつともこれは素外が記したもので、実際は一門を構えた。方円庵得器は妍斎の門人で、その後継であると目され、人気をさらつていたらしい（「蕪村・一茶とその周辺」）。妍斎は浮世絵師勝川春章の誹諧の師匠でもあった（『浮世絵師伝』）。

なぜ養福寺に建てられたのか？ 寛政10年、妍斎の百ヶ日追善のため出版された「誹諧塚

の後には、得器による序が載つてゐる。

妍斎は中年の頃より、歯が落ちると集め

ていて、兼ねてからこれを塚とし、体は

火葬してくれと、弟子たちに託して、いた。

68歳となり、未だ独り身の妍斎は、酒の

ため病んでしまつが、養生も怠つて

いるので弟子たちは師の体を案じ、師の志を

遂げさせようと、養福寺の「花尊碑」の

傍らに塚を建てることにした。妍斎はこ

れを非常に喜んだ。

妍斎にとつて、念願の落歯塚が、「花尊碑」（梅翁花尊碑）の側に建てられたことが非常に喜ばしいことだつたらしい。実際、落歯塚は月の碑・雪の碑同様、花尊碑を囲むように建つてゐた（「日暮里養福寺と梅翁花尊碑」）。

「誹諧塚の後」には、刻まれている妍斎の句を発句として、得器の「筆にハ士筆つきぬ恩沢」の挙句とする歌仙が載つてゐる。この歌仙は、妍斎の生前、落歯塚の句集を作る企画があつたが、容態が悪化し延期しているうちに妍斎が亡くなつたため、没後に巻いた歌仙としている。

弟子の得器にとって、落歯塚の句集を出しが重要だつたのだろう。つまり、得器が落歯塚の建碑を推進し、その歌仙を巻くことによつて、妍斎の後継としての地位を固めた可能性が高い。なお、得器の七回忌追悼句集「藻刈船」によると、得器の閑古鳥の碑もまた、「日ぐらしの里」に建てようとしたが、差し障りがあり、「隅田の里」へ移したのだといふ。

ここでの「日ぐらしの里」とは、妍斎の喜びを念頭におけば、養福寺であろう。つまり、

当時の養福寺は、江戸談林派の聖地といつて

※ブログ「壺中日月」から多くを学ばせていた
だきました。
（龜川泰照）



写真1 絵物語『地球SOS』を題材にしためんこ（昭和25年頃）

寄贈された「めんこ」「めんこ」と聞いて、読者の皆さんは何を思い浮かべますか？子どもの頃の街の風景、駄菓子屋の店先を思い出されたことでしょう。今回は、寄贈者から伺つたお話しと合わせて皆さんに昔懐かしいめんこの世界をご紹介したいと思います。

どんなめんこがあつた？ 今回寄贈されためんこは、小学生だった昭和25年（一九五〇）頃に集めていたもので全部で88点。表は多色刷り、裏は単色のものがほとんどで、大きさは縦7・1cm、横3・6cm。カード型の長方形で角があるものが多いです。描かれている絵柄はプロ野球選手やオリンピック選手、映画俳優といったスターをはじめ、「本田忠勝」、「平重盛」などの歴史上の人物、NHKのラジオ番組『鐘の鳴る丘』、『話の泉』、少年雑誌や紙芝居で連載されていた「黄金バット」、「じょんけんポン助」などがあります。めんこの絵柄は当時の子どもたちに

収蔵庫の「めんこ」 打つた「めんこ」
六品目

とつて人気があつたり、憧れの的になっていた人物、その作品などが題材となっている事が窺えます。その中で、南千住出身の空想画家「小松崎茂」の絵物語『地球SOS』（写真1）も含まれています。他のめんこ同様小松崎本人が描いた作品ではありませんが、めんこの題材として選ばれたのは小松崎の絵物語が子ども達に大人気であつたからに他ならないでしょう。

裏面には人物の紹介文やじょんけんのグーチョキパーのマークが印刷され、集めても遊んでも楽しい子どもたちの玩具でした。

めんこ遊びの一例 めんこは大きさや種類がたくさんあり、遊び方も実際に様々な方法があつたと言います。古くは泥や金属製のめんこが流行した時代もありましたが、ここでは紙のめんこについて南千住の瑞光小学校出身である寄贈者のお話を紹介していきます。

遊び場 学校では取り上げられるので出さないようにして、放課後に学校の近く所にある「まんまる堂」の前や、路地遊び方 お互いが30枚ずつ出し合つて一枚ずつ引いて、予め宣言しておいためんこを引いたら全部もらえる「30枚出し」や、台の上に置いて自分のめんこを叩きつけ相手のめんこを下に落とす「おとし」などの遊び方があつた。

入手方法 駄菓子屋で11~12枚が1セント1円のメンコを買つたり、仲間にもらつ



路地で遊ぶ子ども（昭和37年 当館蔵）区内には路地が多く、子ども達の遊び場となっていた

ルール 同じ子の手持ちのめんこを全部取らない。自分よりも弱い子や下級生には勝負は挑まない。ひっくり返りにくいやうに蠅や油を塗る行為はしないというルールがあつた。一方、全部取られた仲間がいたらカタキを取りにめんこで勝負を挑みにいつた。

めんこの遊びの中には、勝負に負けると相手に取られるというギャンブル的な要素もあるものの、仲間の中でルールを作り、めんこを取られてしまつた子や年少の子への配慮もありました。子どもの遊びの中にも地域や世相を背景にした子ども独自のルールがあり、また遊び方の工夫がされてきたことが窺えます。

（宮部俊周）

平成 28 年度の文化館・文化財の動向

- 4月1日** 平成 27 年度の区登録・指定文化財を区報で紹介。
- 4月23日～6月5日** 「速報！あらかわの文化財展」開催。平成 27 年度の区登録・指定文化財や、新たに収集した資料を展示。
- 5月11～16日** ウィーン市ドナウシュタット区との友好提携 20 周年を記念して、荒川区伝統工芸技術保存会会員・荒川の匠育成事業の研修者を派遣。ウィーンで「荒川展」（5月 12・13 日）開催。
- 5月11・18・25日～6月4日** 「古文書に親しむ」初級編実施。
- 5月22日** 伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる、あらかわの工芸技術」（区指定無形文化財保持者・桐たんす 川俣頼三氏）上映会を開催。
- 5月27～29日** 祭礼等伝統行事総合調査（石浜神社大祭調査）実施。
- 6月2日** 第 1 回文化財保護審議会（諮問）。文化財保護審議会委員 7 名委嘱（再任）。
- 6月29日～7月8日** 七夕エントランス展を実施。
- 7月1～3日** 第 37 回「あらかわの伝統技術展」開催。
- 7月22日～8月31日** 「夏休み子ども博物館」開催。「親子で楽しむ展示解説」「あらかわ職人道場」「勾玉作りにチャレンジ！」「俳句を作ろう！」「リトル学芸員～昔の道具を調べよう～」「あらかわ調べもの相談室」を実施。
- 8月6日～9月4日** 館蔵資料展「あらかわのたかづき」を開催。
- 8月21日** 文化財保護審議会部会開催。

- 9月2日～21日** エントランスで「俳句を作ろう！」展を実施。
- 9月16日** 文化財保護審議会合同部会開催。
- 9月8日～10月13日・11月10日・12月8日** 「古文書に親しむ」中級編」を実施。
- 10月1日～11月6日** 企画展「三ノ輪の殿様～あらかわの大名屋敷～」開催。関連イベント、記念講演会（10月 16 日 講師・岩淵令治氏、小林秀樹氏、船木明夫氏）、史跡めぐり（10月 23 日（大田原市内）・30 日（荒川区三ノ輪周辺））、展示解説（10月 29 日）実施。
- 10月4日～11月24日** 学校職人教室実施。伝統工芸技術保存会の職人さんを区内 24 の小学校に派遣。
- 10月13日** 史跡めぐり「おぐの細道と観月会」実施。東尾久界隈の社寺・史跡・文化財をめぐり、満光寺（東尾久三丁目）で観月会と句会を開催。
- 10月15日** 「荒川ふるさと文化館だより」36 号発行。
- 11月4日** 文化財保護審議会部会開催。
- 11月11日** 川俣頼三氏（区指定無形文化財保持者・桐たんす）、戸村絹代氏（区指定無形文化財保持者・つまみかんざし）が東京都優秀技能者（東京マイスター）知事賞受賞。
- 11月15日** 菓子満氏（区指定無形文化財保持者・铸造）、黄綬褒章受章。
- 11月21日** 高久秀芳氏（区指定無形文化財保持者・人形頭）「卓越した技能者（現代の名工）」受賞。
- 12月27日** 第 2 回文化財保護審議会開催（答申案）。
- 1月31日** 第 3 回文化財保護審議会開催（答申）。
- 2月7日** 第 4 回文化財保護審議会開催。
- 2月7日～4月16日** 養福寺（西日暮里三丁目）の「木造二天王立像（伝持国天・伝毘沙門天）（区指定有形文化財）」のうち、伝毘沙門天像が東京国立博物館で展示公開。
- 2月10日** 平成 28 年度区登録・指定文化財告示（登

- 録）有形文化財（絵画）板本着色平経正竹生島詣図絵馬（延命院所蔵）、無形文化財（工芸技術）提灯文字 前森宏之氏、《指定》有形民俗文化財山富講下谷講社富士講用具（通新町睦所蔵）、有形民俗文化財 丸生講尾久講社富士講用具（荒川区教育委員会所蔵）、無形文化財（工芸技術）鍛金 菅原悦夫氏、《内容および名称変更すべき指定有形文化財》有形文化財（考古資料）日暮里延命院貝塚出土品（荒川区教育委員会所蔵）。
- 2月19日** 第 13 回東西俳句相撲（大垣市）に区内小学生を派遣。荒川区からの出場チーム「こつき山」（赤土小と第六日暮里小の 2 年生）が準優勝（大関）。
- 3月11日** 奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会を開催。大垣市小学生 3 チームを招待。
- 3月18日** 文化遺産を活かした地域活性化事業講演会「三河島山車人形の魅力～山車祭礼の基礎知識～「天王祭に見る山車祭礼の源流～攘災から祝祭へ～」（講師・水谷類氏）実施。
- 3月21日** 荒川ふるさと文化館前に俳人・金子兜太氏の句碑「荒川千住 芭蕉主従に花の春」建立。
- 3月25・26日** 民俗芸能等記録ビデオ（国重要无形文化財松本社中）撮影。
- 3月31日** 伝統工芸技術記録映像「伝統に生きる、あらかわの工芸技術」（区指定無形文化財保持者・つまみかんざし 戸村絹代氏）完成。同氏の作品を購入。
- 荒川区指定無形文化財（工芸技術・桐たんす）
「木造二天王立像（伝持国天・伝毘沙門天）（区指定有形文化財）」のうち、伝毘沙門天像が東京国立博物館で展示公開。
- 荒川区指定無形文化財（工芸技術・桐たんす）
保持者、川俣頼三氏（享年 77）は、去る平成 28 年 10 月 19 日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 計 報